

子どもや孫のためにも**定時運行の路線バス存続を!** それには、みんなが「意識的に乗る」ことが必要です。 ◆ 前日予約の「デマンド方式」やマイクロバスから乗換・・・は不便 ◆

みんなで若穂の公共交通を守ろう!
～相当の覚悟と決意を持って利用実践を～

若穂自治協会長 綿内 剛美

長野市はこの程来年度1年間の保科温泉線バス存続を保証してくれました。しかし平成28年度からは他のバス路線も含めて全くの未定です。これら若穂を走るバス路線を維持していくためには、「住民ができるだけバスを利用する」これ以外に道はありません。このことが多少なりとも実践できて初めて、他の方策や要望も実現可能になってくるのです。

私たちは、今度こそ相当の覚悟と決意を持ってバス路線維持のために渾身の力をこめ実践していかなければなりません。なぜなら、それは現在における若穂の生活や文化の生命線であるし、若穂未来図の糸口でもあるからです。

保科温泉線は1年間存続し、その間に次の方法を検討 (長野市)



《署名を添えて市に要望書提出》

8月29日、若穂自治協は長野市に9千余名の署名を添えて、保科温泉線の存続を要望しました。対応した黒田副市長は、今後地元とも協議したいと応えました。

「保科温泉線」存続についてのアンケート結果 (保科・川田地区対象) 《一部》

Q 赤字を解消するための乗客確保はどのようにしますか? (回答数1330)

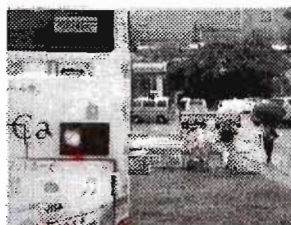
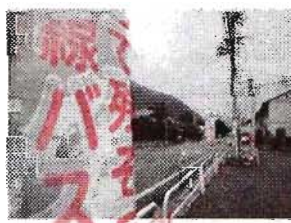
- ① 市内への移動には車を使わずバスを利用する 25.5%
- ② 月に数回はバス利用をする 27.6%
- ③ イベントを開催しバス利用を促進 24.1%
- ④ 地元以外の乗客を集める 14.8%
- ⑤ その他 6.8%

Q 保科温泉線を存続させるために財政面で必要なことはどんなことですか? (回答数1149)

- ① 赤字分は全額補助金で補填 52.2%
- ② 赤字分を住民負担 3.2%
- ③ 赤字分の半分程度を住民負担 19.2%
- ④ 赤字分を埋める回数・定期券を住民が購入 16.7%
- ⑤ その他 7.6%

Q バス利用を進めるためにはどんなことが必要ですか? (回答数1379)

- ① 利用しやすい路線にする 29.7%
- ② バスの本数を増やす 9.2%
- ③ 利用しやすい時間帯に運行 45.1%
- ④ 停留所を増やす 7.3%
- ⑤ その他 7.9%



10・6

「活き生きトーク」で市長に存続訴えます

Q バス路線が廃止された場合一番困ることはなんですか？ (回答数1128)

- ① 移動手段がなくなる 53.2 %
- ② 地域の衰退につながる 28.8 %
- ③ 人口減少が加速 9.9 %
- ④ 地域の結びつきが弱体 5.2 %
- ⑤ その他 2.5 %

利用年代は80歳以上(13.2%) 70代(30.4%) 60代(19.7%) 50代(10.7%) 40代(8.0%) 30代(4.3%) 20代(5.1%) 高校生(6.1%) 中学生以下(2.2%)

これじゃ渋滞するわけだ

落合橋北は5年前と比べてマイカーが46%増

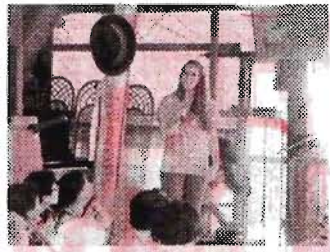
【市の25年度交通量調査】

若穂地区と市中心部を隔てる関崎・落合・屋島の3本の橋…。とりわけ落合橋の渋滞は若穂にとって大きなネックです。市が調査したのは「落合橋北」と「屋島橋西」。いずれもマイカーが大きく増加しています。

調査地点	マイカー増加率	マイカー以外増加率	合計の増加率
落合橋北	46.0 %	— 0.6 %	38.3 %
屋島橋西	40.7 %	— 18.6 %	32.3 %
17地点平均	9.8 %	— 36.2 %	4.5 %

なお、落合橋入口交差点の渋滞最大長さは前回の572mから794mに増大(7時30分発生)。また、通過時間の最大は6分から5分(8時20分発生)に短縮されています。それにしてもひどい渋滞です。

『サルスベリの丘でまちおこし座談会』



第14回『わかほ塾』(戸井田孝雄代表)は、9月13日(土)10時から保科八幡区にある「サルスベリの丘」で開かれ、スタッフを含め約40人が参加。食生活改善推進協議会(竹内幾代会長)の協力による“すいとん”を皆で食べ、一面のサルスベリの中で若穂の明日について語り合いました。会場を提供された入井一人さんには感謝申し上げます。この様子は10月6日の『活き生きトーク』で紹介する予定です。

(高下区のセーラ夫妻は2人の研修生と。↑ ドイツからです)

★ 加藤市長になって、若穂では初めての『活き生きトーク』が、10月6日午後6:30から若穂支所で開催されます。議題は「保科温泉線バス存続」と「旧綿内駅・川田駅の活用」。自由討議の時間も設けられます。どなたでも参加できますので、おでかけください。若穂の声を直接届けられる貴重な場です ★

赤野田川(上和田)河川改修工事の早期完了など県に要望 《 県の土木現地調査 》

●9月5日、自治協は区長会(坂口義行会長)と地域開発推進委員会(宮沢登委員長)メンバーにより県土木事業への要望と現地調査を実施。若穂地区の要望は道路関係47件、河川関係27件だが主なものは◇国道403号の道路改良や歩道設置の早期実施(関崎橋東詰交差点改良、綿内地区内道路改良)◇県道長野菅平線の道路改良の早期実施(落合橋南詰交



差点改良)◇赤野田川(上和田)の河川改修工事の早期完了◇保科川、赤野田川の河床整備。

- 長野建設事務所担当課長は「財政状況が厳しい時ではあるが、安全で安心できるまちづくりのため緊急性、事業効果等を考慮し、早期に対処できる案件はできる限り実施してまいりたい」と述べた。
- 市の現調は、10月6日～9日に予定。

【お知らせ】 第6回理事会は10月16日(木)午後3時～・若穂支所2階で開催予定(事情で日時が変更される場合がありますので、傍聴ご希望の方は事前に事務局へご確認を)。議題は◆保科温泉線バスの存続について一など。